

# かけはし

会報 88号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:井上 育世  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:<http://www.jpald.net/>



## 特定非営利活動法人 全国 LD 親の会第 12 回総会および第 18 回公開フォーラム開催

第 12 回総会および第 18 回全国 LD 親の会公開フォーラムならびに研修会、懇親会を下記の日程で行います。  
 総会議案書等は 5 月上旬にメールにて送信いたします。  
 研修会・公開フォーラム・懇親会の申し込み等については、既にロック経由でお知らせ済です。

### ●第 12 回総会

日 時:2019 年 6 月 15 日(土)13:00~14:15  
 会 場:国立オリンピック記念青少年総合センター  
 センター棟 311 研修室  
 (小田急線参宮橋下車 徒歩 7 分)

### ●研修会

日 時:2019 年 6 月 15 日(土)14:30~16:30

会 場:センター棟 311 研修室

#### テーマ:発達障害のある高校生調査報告

昨年度おこなった「発達障害のある高校生アンケート調査」では、高校生の子どもを持つ会員だけでなく、高校卒業後 4 年程度の子どもを持つ会員にもご協力いただき、お子さんの高校生活および高校卒業後のライフステージに向けた高校の取り組みについてのアンケートを実施しました。高等学校段階における校内支援体制やキャリア教育の充実といった課題が挙げられている中、高等学校卒業後の進学や就労に向けた新たな取り組みも始まっています。

既に数値の集計作業は終わっていますので、研修会ではその集計結果を使って、現状のまとめと、それに基づくグループ討議を行います。9 月頃には報告書を発行する予定ですが、その前に、どのデータをどのような形で行政等にアピールしていくかを考えていきましょう。

### ●青年の交流会「江戸東京博物館と両国散策」

日 時:2019 年 6 月 15 日(土)12:15 集合

集合場所:センター棟 107 研修室

今年は両国へ行って、江戸東京の歴史と文化に浸りましょう。見学後は大崎で懇親会も予定しています。

### ●第 18 回全国 LD 親の会公開フォーラム

#### 「発達障害にとっての社会的障壁と合理的配慮」

日 時:2019 年 6 月 16 日(日) 9:40~16:30 (開場 9:10)  
 会 場:国立オリンピック記念青少年総合センター  
 センター棟 501 研修室

改正発達障害者支援法では「社会的障壁により」という文言が新たに付け加えられました。「社会的障壁の除去」とは具体的にどのような方法が考えられるのでしょうか? ともに考えたいと思います。詳しくは、全国 LD 親の会 HP をご覧ください。

#### プログラム

9:45	基調講演 「社会的自立を支える力」 講師 品川 裕香 氏 (教育ジャーナリスト)
11:15	行政解説「特別支援教育の動向について」 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 課長 俵 幸嗣 氏
12:00	昼休憩
13:00	行政解説「発達障害支援施策の動向について」 厚生労働省職業安定局 障害者雇用対策課 地域就労支援室 室長 澤口 浩司 氏 厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部障害 福祉課 発達障害施策調整官 田中 尚樹 氏
14:30	休憩
14:45	シンポジウム「発達障害者の顕在化されにくい読 み書き困難の現状」 (厚生労働省平成 30 年度障害者総合福祉推進事業報告) 報告 1 アンケート報告から 東條 裕志 報告 2 本人ヒアリングから 品川 裕香 氏 報告 3 支援者ヒアリングから 井上 育世 コメント 田中 尚樹 氏

### ●懇親会

日 時:2019 年 6 月 15 日(土)17:00~19:00

会 場:レストランさくら(D 棟)

新宿副都心を眺望できるレストランで会員懇親会をおこないます。全国各地の会と交流を深めましょう。

## 一般社団法人日本LD学会 第27回大会報告

2018年11月23日(金・祝)~25日(日)

会場:新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ

テーマ:「発達障害のある子どもたちのインクルーシブ教育システムの構築—特別支援教育の10年の成果とこれからを考える—」

11月23~25日朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟市)にて、一般社団法人日本LD学会第27回大会が開催され、2600名もの参加がありました。「発達障害のある子どもたちのインクルーシブ教育システムの構築」をテーマに、3日間にわたり、教育講演・大会企画シンポジウム・自主シンポジウム等92講座、ポスターによる研究発表172点があり、幼児期・学齢期から就労支援・自立に至るライフステージの様々な課題について、教育・心理・医療・福祉・労働と様々な分野から多角的に取り上げられていました。(日本LD学会の会員は1万人と、教育・心理分野の学会では最大規模となっており、教育現場の先生方も多く参加されています。)

大会2日目の一般公開シンポジウム「特別支援教育の10年、これからの10年」では、弊会の井上理事長が上野一彦先生(東京学芸大学名誉教授)・柘植雅義先生(日本LD学会理事長)・峰山智子先生(京都府教育委員会)とともに登壇し、全国LD親の会の活動と親の思いや願いについてお話しさせていただきました。

特殊教育から特別支援教育への転換期には、全国LD親の会も支援を求めて地道な取り組みをしていました。特別支援教育が本格的に開始されて10年余が経過し、発達障害への理解は進みましたが、まだまだ具体的な指導法については十分とは言えず、地域格差も課題となっています。成果に結びつくようなエビデンスに基づいた具体的な指導・手立てについて一層、研究が進むことを期待しています。また、様々な福祉サービスも充実してきましたが、それが適切な保護者支援に繋がるよう、当事者として問題意識を持ち、提言していきたいと思います。

特別支援教育は『特別な子のための特別な教育』ではなく、授業のユニバーサルデザインのように、『すべての子どもにとってよりよい教育』と捉えていただきたいです。発達障害は未だ“誤解されやすい障害”であり、周囲の子ども達の理解と環境整備は欠かせません。障害のある子どもへの支援はもちろんのこと、周囲の子ども達の障害観を育むことも重要で、ぜひ学校全体で取り組んでいただきたいと願っています。

## 親の会企画シンポジウム

日時:2018年11月24日(土) 11:20~12:50

テーマ:「発達障害のある高校生の実態調査からみた現状と課題～自立と社会参加に向けて～」

企画者:NPO法人全国LD親の会

司会者:NPO法人全国LD親の会 多久島 瞳美

話題提供:NPO法人全国LD親の会 東條 裕志

新潟県立長岡明徳高校校長 石和田 弘氏

社会福祉法人すいせい理事会 岸田 耕二氏

指定討論者:関西学院大学 教授 丹羽 登氏

### 【企画の趣旨】

平成30年度から高等学校における「通級指導」も制度化されましたが、高等学校の様相・課程は多様であり、生徒のニーズも多岐にわたる状況の中で、高等学校における特別支援教育をどう位置づけるのか、多くの課題があります。全国LD親の会が30年度に、15~21歳の子どもを持つ会員(保護者・本人)を対象におこなった「高校生の実態調査」から見えてくる現状やニーズを踏まえながら、高校生一人一人が自分らしく生きる力や進路選択のための判断力・実行力を身につけるための取り組み・課題について考えるシンポジウムを企画しました。



### ○話題提供1 「会員調査速報」 東條裕志

はじめに東條理事より、「高校生の実態調査(会員調査)」の集計データをもとに、「進路選択で困ったこと」「受験時の高校への相談」「進路先の選択理由」「高校の支援体制」等について報告しました。

(アンケートは保護者379名・本人301名から回答をいただきました。多くの会員の皆様にご協力いただき、誠にありがとうございました。)

- ・進路選択にあたっては「中学校からの情報が少なかった」「学力に見合う学校が少なく、選択の余地がなかった」「不登校」という悩みが多い。
- ・進路の選択理由について、保護者は「本人が希望した」「卒業後、働くことを考えたから」「発達障害への理解が

ある」「親の会の情報から」が多い。本人は「自分のペースで勉強を進められるから」「親がすすめた」「学力が自分に合っていた」「配慮をしてくれそう」が多い。

- ・受験時に高校等へ相談した比率は半数を超えてい。特別な配慮や支援については、7~8割と多くの会員が学校へ相談したと回答している。一方、相談しなかった理由としては「本人が開示したがらなかった」「理解がないので、相談しても無駄だと思った」も約2割あった。
- ・どの学校種別でも、「学校があつてている」「どちらかと言えばあつてている」との回答が約8割となっている。

報告から、本人の特性にあわせた進路選択の重要性と進路選択においても親の会が情報提供等の役割を果たしていることを実感しました。

#### ○話題提供2 「新潟県立長岡明徳高等学校における通級指導」石和田 弘氏

続いて、石和田先生より、長岡明徳高等学校の通級指導の取り組みについてお話をいただきました。その高校では週1回、「自立活動」という講座名で、自分の特性・コミュニケーションスキル・就労等について理解を深めているとのことでした。社会に出る直前の高校の時期に、このように具体的なスキルを身につけ、自己理解を深めることはとても重要だと感じました。しかし、高校での通級指導の取り組みは始まったばかりで、生徒の実態把握が困難であることや持続可能な指導体制の構築・指導プログラムや指導者の育成等、課題が多くありました。まだまだ各地域でもモデル事業として、一部の高校で取り組まれているのが現状かと思いますが、今後、より多くの高校において通級指導や合理的配慮の取り組みを拡充させてほしいと思いました。

#### ○話題提供3 「学生のキャリア形成の課題～福祉の視点～」岸田耕二氏

最後に、就労支援事業所の立場から、就労支援の取り組みや課題についてお話をいただきました。支援する中で「自分の適性・長所が分からない」という方が多く、自信が持てずチャレンジできなかったり、自分に向かない職業をめざしてミスマッチになたりと、悪循環になることもあるとのことでした。「社会性や働き続けるためのスキルに加え、早期からの『社会的自己理解(自分の特性の活かし方を知ること)』が重要であること」「幼少期から“違い(特性)”を本人や周りの人が理解し、認め、応援して、『自分でいいんだ』という自信を持たせること。社会の側も“違い”を活用する術を知ることが重要である」というお話を心に響きました。

#### ○指定討論

丹羽登先生より、特別支援教育について、ダイバーシティの観点から、マイノリティではなく多様な子ども達がいるという多様性を前提とした教育、それぞれの人に対する配

慮が重要とのお話をいただきました。

#### 親の会紹介ポスター展示

今大会では、広々とした展示ホールに、各地の親の会16団体(北海道クローバー、千葉コスモ、埼玉麦、新潟いなほの会、愛知かたつむり、岐阜れんげの会、富山ゆうの会、滋賀トムソーサ、大阪おたふく会、大阪翼、兵庫たつの子、鳥取らっきょうの花、広島明日葉、岡山はあとりんく、長崎のこのこ、福岡たけのこ)のポスターを展示しました。各会よりポスター展示にご協力いただき、誠にありがとうございました。どの会も工夫を凝らしたカラフルな力作ぞろいで、多くの方が熱心に見て下さり、広く親の会の活動について知っていました。

展示された各会のポスターは、全国LD親の会のホームページに活動紹介とともに掲載していますので、ぜひご覧ください。



#### 親の会懇親会

大会初日の夜、新潟駅近くの居酒屋「もみじ苑」にて、親の会懇親会を催しました。会員19名と親の会企画シンポジウムにご登壇いただいた岸田さんと丹羽先生にご参加いただきました。新潟の美味しい料理とお酒を堪能しながら、全国各地の皆さんといろいろ情報交換し、交流を深めることができました。

学会が開催された朱鷺メッセは、信濃川の河口付近に位置しており、31階の展望室から新潟市中心部や日本海、遠くは佐渡島などの眺望を楽しむことができました。

大会の準備からポスター展示・冊子販売・親の会控室のお世話まで、新潟いなほの会の皆様に大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

#### 日本LD学会第28回大会のご案内

日 時：2019年11月9日(土)～10日(日)

会 場：パシフィコ横浜 会議センター

テーマ：『LDの「定義」を再考する～教育定義の誕生から<20年>の今こそ～』

## 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業 「発達障害者の顕在化されにくい読み書き困難についての実態調査」

全国LD親の会では、平成30年10月から平成31年3月までの半年間、厚生労働省の障害者総合福祉推進事業として、発達障害者の読み書き困難の実態調査を実施することになり、量的調査として発達障害者当事者団体の会員へのアンケートを、質的調査としてヒアリングを行いました。結果は報告書としてまとめ、弊会HPにアップしています。

### (1)アンケート調査

アンケート調査は全国LD親の会の会員だけでなく、他の当事者団体や各地域で活動を展開している支援団体経由で、より広く発達障害者本人やその親に協力していただき、下記の2種類を実施しました。

#### ①発達障害者本人に対するアンケート(対象 18才以上)

社会生活の中の文字や文書に関して、どの程度社会的障壁となっているか、また本人が獲得している対処方法などの現状について

#### ②発達障害者の親に対するアンケート

成育歴・親から見た現状について

アンケート用紙は、59か所に2,021部(本人用・親用ペア)送付し、お陰様で、約半数の方から回答をいただきました。集計したデータ数は下記のとおりです。

・本人単独集計:911件

・親単独集計:1,069件

・本人・親ペア集計:856件

### (2)ヒアリング調査

#### ①発達障害者本人からのヒアリング調査

ヒアリング調査は、「発達障害に関する団体や自助グループに参加している人・全く参加していない人」、「学齢期に何かしらの支援を受けたことがある人・全くない人」といったことに偏りがないように実施しました。また、チックがあるため「読み書きに集中できない」「字がうまく書けない」といった「読み書き困難」があるトウレット症候群の人からもヒアリングをおこないました。

#### ②支援者からのヒアリング調査

発達障害者を支援している立場から、検査・相談(カウンセリング)事業や就労移行支援事業に携わっている支援者と、学校の教育現場に関わっている作業療法士の計3名に協力を依頼しました。それぞれ、読み書き困難が見過ごされやすい現状と背景、「読み書き困難」がある人の就労における課題、書字困難における「不器用」への具体的な支援を中心にヒアリングを行いました。

### (3)親の会会員の座談会

読み書き困難が顕在化されにくい理由として、「自分が読み書きは苦手だと思っていない」、また「自分の読み書きの困難さを言いたくない」ことが挙げられます。発達障害のある子どもを育ててきた親から見た「自分の読み書きの困難さを言いたくない」心理状況と、「読み書き困難についてのライフステージを通じた切れ目のない支援」について、親の会会員が意見交換する場を設定しました。

### 調査結果から

#### ◎「読み書き困難についての自己理解」

「読むことより書くことの方が苦手だ」という回答が多くありました。それは、支援者のヒアリングにもあるように、どう見えるかは生まれ持ったものなので、本人はそれが読みにくい状況だと気づきにくいことがあります。しかし、「書くことについては、周囲が書いたものを見て気づき、「間違っている」「おかしい」という指摘が入りやすいからだと思われます。

#### ◎「IT機器の利用状況」

自分は読み書きが苦手だと認識している場合は、認識がない場合よりも、IT機器の読み上げソフトや音声入力ソフト、紙の書類へのPC入力ソフトなどを利用している割合が高いのではないかと予想していましたが、両者にそれ程の差はなく、自分は読み書きが苦手だと思っていても、IT機器の読み書き支援ソフトの利用は多くないことがわかりました。

IT機器のソフトの利用は個人差が大きく、学齢期から、自分に合った使用方法を試行錯誤しながら取り入れていく過程があつてこそ、おとなになって仕事や生活に役立てたり、使いこなしたりできることを示しています。

#### ◎「読み書き困難についての社会的障壁」

街中の看板や交通機関の表示では、文書を読むことが苦手な人は、バスや電車の行き先や案内図などの文字や説明などがわかりにくいくこと、また、商品や製品の説明書や契約書、医療機関の書類、市役所や区役所の書類などは、それぞれの生活の状況によって触れることが多い書類に対して、「わかりにくい」という回答が多くありました。

また、本人がどのような読み書きの工夫をしていても、本人宛ての書類や年末調整の書類、電話や伝言のメモ、履歴書等への記入はわかりにくく、書類記入に対する支援として、「質問に丁寧に答えてくれる人」「相談に乗ってくれる人」が欲しいといった、マンパワーを求める割合が高くなっていました。

## ◎「読み書きについての療育や指導の状況」

診断・判定を受けた時期が早いほど、読み書きについての療育・指導につながっていますが、中学校以降に診断・判定を受けた場合は、読み書きについての指導をほとんど受けないことがわかりました。早期発見・早期支援の重要性を示唆するものと言えます。

## ◎「家族のサポート状況」

「文書の内容の説明・確認」が54%と最も多く、次に「提出期限など文書の管理」が42%でした。文字や文章の読み書き等、文書については親や家族が支援している状況が伺えます。

親は子どもの現在の読み書き困難の状況として、「本人だけでは障害者手帳の更新など役所等への書類が作成できない」ことを一番に挙げており、働く上でも「文書の内容把握のためには説明が必要」「報告書等の書類が書けない」という回答がたくさんありました。そして、「安心して気軽に相談できる窓口が必要だ」と73%の親が回答しています。

一方、本人は「字を読むこと」「文章を読むこと」「字を手書きすること」「文章を手書きすること」が最も苦手だと思っている人は少なく、逆に「文章を読むこと」「文章を書くこと」が得意だと思っている人もいます。親や家族のサポート状況と本人の認識にはかなり開きがあります。学齢期に「読むこと」「書くこと」への拒否感を持たなければ、本人が興味あることに対しては、自分のペースで本を読んだり、文を書いたりすることは問題ない場合もあります。しかし、仕事として一定の速さ、正確さを求められると、困難な状況が生じるのは、支援者や親からのヒアリングで挙げられているとおりです。

## 読み書き障害が顕在化されにくいのは…

LD(限局性学習症)を団体名に入れている全国LD親の会ですが、実は会員の子どもの診断名はASD(自閉スペクトラム症)が一番多くなっています。最近は診断時期が早くなる傾向がありますが、以前は、小学校2・3年生になり、学習面の困難をどうにかして欲しいといった思いで、入会する親がたくさんいました。

「学校での友達とのトラブルが多い」「授業中じっとしていられない」「こだわりが強い」「縄跳びができない」というADHD(注意欠如・多動症)やASD、DCD(発達性協調運動障害)の特性がみられる子ども達ですが、学習面での「教科書の音読が苦手」「板書をノートに写せない」「書字に時間がかかる」といった読み書き困難も併せ持っている子どもは少なくありません。ASD、ADHD、PDD(広汎性発達障害)あるいはDCDとDD(発達性読み書き障害)の併存率は高いと言われていますが、私たち親はそれを体験的に知っています。

また、読み書き障害がある子どもたちの困難さは、読字・書字が苦手であるということ以上に、その障害が理解されないことにあり、理不尽に叱責されたりして「自信が持てない」「自尊感情が低い」「他者依存傾向が強い」といった人格の形成にも影響を与えるといいます。

読み書きが苦手な子どもたちは成長し、おとなになり、読み書きが必要としない仕事を選んで就職していきます。社会に出ると「読み書き」より「社会性」のほうが課題になることも多く、親は子どもが学校に通っていたときに散々苦労した「読み書き困難」については、差し迫った課題として挙げることも少なくなります。しかし、おとなになって読み書きができるようになったわけではなく、また、読み書きが苦手でも困らない社会になったわけでもありません。読み書き困難が顕在化されにくくなつたに過ぎないです。

## 一般社団法人日本LD学会 第2回研究集会

## 公開シンポジウム

## 顕在化しにくい発達障害の早期発見と支援

日時:2019年1月13日(日)13:00~16:30

会場:上智大学四谷キャンパス6号館

平成28年度から、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター(NCNP)が、厚生労働科学研究費補助金事業「顕在化しにくい発達障害の特性を早期に抽出するアセスメントの開発及び普及に関する研究」に取り組み、アセスメントツールである「観察シート(CLASP)」を作成しました。幼児期に症状の兆しが見られ始めるチック症、吃音、不器用症、読み書き障害について、早期からの支援の手立てとして活用が期待されています。

読み書き障害は、文字の学習が始まる小学校低学年の段階で診断されることが多いです。しかし、読み書き障害による学業不振、学校不適応という問題へと発展させないためにも、就学前の早期発見と早期支援体制を充実させることが重要です。

この「観察シート(CLASP)」は、保育士や巡回相談員などが簡便に、かつ短時間で利用できるようになっており、国立精神・神経医療研究センターのHPにアップされるそうです。

読み書き障害が見過ごされたままおとなになり、仕事などで躊躇してから診断されるというケースは、おとの読み書き困難の実態調査でのヒアリングでも挙げられていました。今回の調査で、早期発見・早期支援とともに、社会への理解啓発を進めていくこと、発達障害者支援施策における「ライフステージを通した切れ目ない支援」に、読み書き障害を位置づけていくことの重要性を改めて考えさせられました。

## 特別支援教育支援員養成事業

### ●2018年度 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

2018年度も下記の通り、特別支援教育支援員養成講座 in 大阪を開催しました。学校の支援員だけでなく、発達支援放課後等デイサービスなど、発達障害のある子ども達に関わっている多くの方に受講していただきました。

#### ◆講座の種類

- (1)支援員コース [講習:6日間(20科目/28.5時間)]
- (2)学習支援員コース[講習:8日間(26科目/39.5時間)]
- ◆共催:大阪LD親の会「おたふく会」

◇◆◇◆◇◆◇受講者の感想より ◇◆◇◆◇◆◇

#### 第1日目 8月25日(土)

- (1)特別支援教育概論 竹田契一先生
  - ・自分の子育てが悪いのではないかと聞いてほつとした。
- (2)特別支援教育支援員の業務 大谷和夫先生
  - ・教師だけでは十分でない部分を支え、うまく連携をとることはとても重要な役割だと感じた。
- (3)特別支援教育支援員の倫理・心構え 大谷和夫先生
  - ・「うまくいったことの共有」はとても大切だと思った。

#### 第2日目 8月26日(日)

- (1)主な障害の特性と理解(1) 花熊暁先生
  - ・スライドが分かりやすく、後で振り返って確認をするときに常に近いところに置いておきたい。
- (2)主な障害の特性と理解(2) 花熊暁先生
  - ・抑制系と報酬系のトラブルの話は大変参考になった。
- (3)子どもへの対応の基本 笠廣みさき先生
  - ・ついつい子どもに手を貸してしまいがちで、改めて自立の邪魔をしていたんだと考えさせられた。
- (4)障害のある子どもの心理 笠廣みさき先生
  - ・疑似体験はしたことがあるが、気持ちや支援の仕方まで突っ込んで考えたことが無かったので良かった。

#### 第3日目 9月8日(土)

- (1)学校・学級での支援/担任との連携 小田浩伸先生
  - ・親と話すとき、肯定から入り、共にやっていこうという姿勢を示す話など、目からウロコの話が多くて参考になった。
- (2)介護・介助の基礎、移動介助 小田浩伸先生
  - ・介護・介助のお子さんに補助的につくことがたまにあり、今日、お話を聞けて良かった。

#### 第4日目 9月15日(土)

- (1)子どもの特性と対応方法 視覚障害 松下幹夫先生
  - ・視覚障害といっても、視野が狭い、色が区別しにくいなど、いろいろなものがあることが理解できた。
- (2)子どもの特性と対応方法 聴覚障害 森田雅子先生
  - ・聴覚障害の子は、どういう状況の時が聞きづらいのか、わかりづらいのかがわかり、対処のヒントをいただけた。

#### (3)ペアレントトレーニングの視点(1) 米田和子先生

・「感情」は受け止めるが「行動」は修正する。実際は、感情を否定して行動を制限しがちだと思った。

#### (4)ペアレントトレーニングの視点(2) 米田和子先生

・別の場所で受けたペアトレは難しくてできなかつたが、今回のプログラムはできそうだなあと思った。

#### 第5日目 9月17日(月・祝)\*学習支援員コース

- (1)読み書きの困難とサポート方法 村井敏宏先生
  - ・読むこと、書くことが苦手といつても、原因がいろいろあり、対処法も違うということを体系的に知ることができた。
- (2)聞く・話すの困難とサポート方法 村井敏宏先生
  - ・ワーキングメモリーの説明がとてもわかりやすかつた。機能性構音障害の指導の具体例があつて助かつた。
- (3)教材・教具の利用方法 山田充先生
  - ・ワークがとてもためになつた。多くの事例が参考になつた

#### 第6日目 10月14日(日)\*学習支援員コース

- (1)算数の困難とサポート方法 栗本奈緒子先生
  - ・算数も、不注意・不器用さ・理解が不十分といった様々な原因があることがわかつた。
- (2)子ども達に接するときのポイント 西岡有香先生
  - ・支援員として、明日からの活力になるものだつた。
- (3)ロールプレイング、グループ討議 西岡有香先生
  - ・ロールプレイングすることで、支援する側の注意点(立ち位置や声の大きさなど)がよくわかつた。

#### 第7日目 10月20日(土)

- (1)特別支援教育コーディネーター 今村佐智子先生
  - ・「学校コワイ」を紹介してください、「これだ！」と思った。
- (2)現役支援員からのレクチャー 今村佐智子先生
  - ・「支援の仕方が変わると子どもも変わる」という言葉が素晴らしいと思った。
- (3)自立生活面の困難とサポート方法 松久眞実先生
  - ・「忘れ物くらいで叱らない」これは私も意識して子ども達と接していくこうと思った。
- (4)学校生活面の困難とサポート方法 松久眞実先生
  - ・1日の見通しなどスケジュールを提示することやタイマーなどを利用し、終わりを明確にすることなど参考になつた。

#### 第8日目 10月21日(日)

- (1)社会性・行動面の困難とサポート方法 伊丹昌一先生
  - ・応用行動分析の考え方、3分割で行動の意味を捉える方法がとても参考になつた。
- (2)ロールプレイング、グループ討議 伊丹昌一先生
  - ・教育相談のロールプレイは、今後に役立つと思った。
- (3)保護者への対応 井上育世
  - ・子どもを真ん中に、保護者一人一人としっかり話をして、同じ方向に向かって努力していこうと思った。

## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) より

### 1) JDDnet 第14回年次大会の開催

JDDnet では、2005年12月の発足時に記念フォーラムを行って以来、毎年12月に年次大会を行っています。

2018年も12月2日(日)に東京都文京区の東洋大学白山キャンパスで、「発達障害児者が安全に暮らすために～災害時の対応、犯罪被害の予防～」をテーマに、第14回年次大会を行いました。

午前の第1部でのテーマは『安全と健康』でした。その中で、「防災に『発達障害』についての意識が無いこと」などの問題提起がされました。現在の国土交通省などのガイドラインでは、障害者が避難所で「集団行動ができる」とが前提となっているそうです。内閣府からは、避難所の空間配置を事前に作成している自治体の先進事例などが紹介されました。

午後の第2部では『犯罪の予防』がテーマでした。多くの発達障害者が「いじめられ体験」をしていることや、ASDのある人が「『偽の友人』による友人犯罪」に遭いやすいこと、また被害者になるだけでなく、犯行を強要されて加害者になってしまふ場合があることも紹介されました。

第3部では、発達障害の支援を考える議員連盟の国会

議員3名とフロアの参加者との質疑応答を行いました。事前連絡無しの質問には議員の方々も即答とはいかなかったようですが、時間も足りない感じがしました。

### 2) JDDnet の組織運営について

これまで JDDnet は日本財団からたくさんの助成金をいただいていましたが、この助成金は 2018 年度が最後となり、2019 年度からはなくなります。いろいろな経費削減を模索し、常勤の事務局長も退任した結果、2018・2019 年度はほぼ收支バランスが取れる予想です。

しかしながら、現在の事務局体制は以前と比較すると大幅に弱くなっています。非常勤の事務局員が週 1 日程度と、非常勤の事務局長が週末に事務所に行く程度となりました。JDDnet への連絡は、メールベースで行ってくださるようお願い致します。

### 【JDDnet 事務所の移転】

現在の事務所が「高輪ゲートウェイ駅」の駅前再開発地域にあるため、今年中に事務所を移転する必要があります。移転には定款の変更も必要になる場合があるので、JDDnet 代議員総会で正式に決めることになります。移転先が決まれば、改めて皆さんに報告します。

## 全国特別支援教育推進連盟 より

平成30年12月7日、国立オリンピック記念青少年総合センターで第41回全国特別支援教育振興協議会が開催され、教員、保護者等 248 名の参加がありました。又、全国LD親の会、関東ブロック6会より9名の参加を頂きました。ありがとうございました。お疲れ様でした。

主題は「学校教育におけるインクルーシブ教育の充実に向けて」とし、文科省・厚労省の行政説明に続き、小・中学校・特別支援学校より、取組の発表や報告がありました。第1部は「共生社会の実現に向けたPTAや地域の役割」、第2部は「学校における合理的配慮について実践事例報告」でしたが、とても新鮮だったのは横浜の小学校での、「生徒の意見を聞いての通級での取組」でした。子どもにとっていい環境がそこにある、と思う授業で、是非、全国に広がってほしいと思いました。

平成31年2月8日に開催された理事会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 中村課長より、平成31年度特別支援教育関係の予算案等についての説明がありました。「切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実」として発達障害関連では、以下のような事業(抜粋)に取り組まれます。

\* 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業

\* 学校と福祉機関の連携事業

\* 特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業

\* 特別支援教育に関する実践研究充実事業

\* 学習上の支援機器等教材活用促進事業

\* 教科書デジタルデータを活用した拡大教科書、音声教材等普及促進プロジェクト等

### ○特別支援教育支援員の地方財政措置について

公立幼稚園、小・中学校、高等学校、全体で 2019 年度(案)は 65,000 人、昨年度の 1,900 人増になります。

### ○教育と福祉の連携を推進するための方策について

家庭・教育・福祉の連携「トライアングルプロジェクト」報告を踏まえ、学校教育法施行規則の一部改正を実施(H.30.8)。個別の教育支援計画(卒業後までの長期支援目標)の作成に当たっては、児童生徒又は保護者の意向を踏まえつつ、関係機関等と支援に必要な情報の共有を図らなければならない、と明記されました。

### ○障害者の生涯学習の推進について

「文部科学省 障害者活躍推進プラン」として、『発達障害等のある子供達の学びを支える～共生に向けた「学び」の質の向上プラン～』等の説明がありました。

## ●NPO法人全国LD親の会 活動報告

※活動報告(第26回 評議員会以降)

6月28日 全国特別支援教育推進連盟文部科学省・厚生労働省へ要望書提出・懇談  
 6月28日 全国特別支援教育推進連盟第2回常任理事会、7月04日第2回理事会  
 6月30日 JDDnet 第8回代議員総会・懇親会  
 7月26-27日 第36回理事会(みなし決議)  
 8月03日 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業(2次公募)に応募  
 8月04-05日 ボランティア支援員養成講座 in 滋賀  
 8月25・26日、9月08・15・17日、10月14・20・21日 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪  
 9月20日 全国特別支援教育推進連盟第3回常任理事会、10月04日第3回理事会  
 9月25日 「かけはし」87号発行  
 9月28日 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業内示  
 10月20日 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業第1回検討委員会  
 10月29日 第37回理事会(みなし決議)  
 11月23~25日 日本LD学会第27回大会(新潟)  
 12月02日 第14回JDDnet年次大会  
 12月07日 全国特別支援教育推進連盟第41回全国特別支援教育振興協議会

2019年

1月13日 日本LD学会第2回研究集会  
 1月21日 平成30年度発達障害に関するネットワーク推進会議  
 1月31日 全国特別支援教育推進連盟第4回常任理事会、2月08日第4回理事会  
 2月23日 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業第2回検討委員会  
 3月04日 総務省・厚生労働省共同開催「ICTアクセシビリティ確保部会」ヒアリング



## ●第37回理事会報告

理事会の決議があったとみなされた日時:平成30年10月29日 19:00 - 20:40

開催場所:電磁的記録によるもの

[決議] 下記の通り、平成30年度補正予算案を決議する。

平成30年度予算案に以下の事業収支を補正し、(1)から(4)の通り改める。

厚生労働省「平成30年度障害者総合福祉推進事業」2次公募

指定課題40「読み書きに困難さのある発達障害者の生きづらさと支援に関する調査」

(1)「受取助成金」の項目を「受取補助金」に改める。

(2) 受取補助金「0円」を「1,969,000円」に改める。

(3) LD等の発達障害に関する研究事業費に「厚生労働省H30年度障害者総合福祉推進事業」の項目を加える。

(4)「厚生労働省H30年度障害者総合福祉推進事業」として、「1,969,475円」を計上する。

## ●第38回理事会報告

開催日時: 2019年2月10日 16:30 - 17:00

開催場所: ヒューマンプラザ7階会議室1

[決議] 第27回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。